

# 保育所の平面構成に関する研究

横山 勉

A Study on Planning in the Nursery School

Tsutomu YOKOYAMA

Presently, the contents of nursing show a tendency to value personality, develop ability. The nursery space should be along the contents of nursing. But it's not always that. Such being the case, as for planning, it's necessary to examine the nursery space. At the time of examination, we took notice of the terrace space. In conformity with child's activities, we have surveyed a nursery school for the purpose of making certain whether the terrace space is effective or not. As a result of research, the terrace space proved to be effective for planning of a nursery school.

## 1. はじめに

昭和63年に発表された新保育所保育指針にも示されているように、保育内容は個人を大切にし、個性の豊かさをひきだし、伸ばす方向に向かっている。保育所は幼児を大量に収容し、保育する量の時代を終えて、質の時代にはいっている。したがって、保育空間もそれにそった方向に向かわなければならないが、現状は必ずしもそうはない。保育所の建築空間に対する要望も様々なかたちで論議されているが、保育室、遊戲室、調理室等を交通手段としての廊下で結ぶだけの画一的な保育所が大多数であるのが現状だ。制度的側面から保育空間を限定せざるを得ない状況が一方では存在するが、保育空間のよりよい計画のためには、幼児の生活行為の中で、保育空間として保育内容に対応する諸室を分離した方が効果があるのか、また融合した方が有効なのか検討が必要である。またそのときには、幼児の居場所の確保に留意する必要があると考えられる。

今回は限定的保育空間としての保育室に隣接して設けられたあいまいな多用途空間としてのテラス空間（ここでいうテラス空間は建物の外部、内部どちらの場合にも使用）に着目して、保育内容と保育空間の関わりがどのように発展し、テラス空間がどのように有効であるのか、調査・分析するものである。

## 2. 調査概要

- 1) 調査対象 テラス空間を有する保育所を対象として、4例をあげて調査した。（表-1、表-2）また生活行為が意図的に規制できる3才児以上を対象とした。
- 2) 調査方法 予備調査と本調査を行ない、本調査は9時から16時まで実施し、生活の様子を6分毎にメモ（平面図に幼児の位置、グループの様子、生活行為の内容、家具の位置を記入）をとり、また10分毎に写真撮影をして、記録をとった。主に観察調査であるが、合せて保育者のヒアリング調査も行なった。

## 3. 生活行為と保育空間の関係

幼児の生活行為の流れは、各保育所とも大差はなく、おおむね同じである。すなわち、自由保育（課題保育）→食事の準備→食事→食事の後片付け→着替え→午睡→着替え→おやつ→自由保育となっている。生活行為の時間も各保育所ともおおむね同じである。ただ食事に要する時間は個人差が大きく、一斉に食事終了という具合にはいかない。そのため、食事のつぎの生活行為への移行には、時間とともに場所への配慮が必要であることがうかがえる。生活行為がすべて規則正しく行なわれるのではなく、2つ、3つの行為が同時進行する場合もある。ひとつの行為が行なわれている中、つぎの保育の準備をしなければならないことは多く見受けられる。それが同一空間で行なわれた方がいいのか、別空間が望ましいのか検討する必要がある。各保育園について、生活行為とそれが行なわれる保育空間をみていくと、

表-1 調査対象保育所概要

	所在地	設置主体	調査日時	定員	延床面積	構造	竣工年
I 保育園	福井市	社会福祉法人	予備調査 1991.3/30 本調査 1991.7/25	120名	873 m <sup>2</sup>	R.C造2階 一部木造平屋建	1989年
K U保育園	鯖江市	社会福祉法人	予備調査 1991.5/24 本調査 1991.7/16	120名	895 m <sup>2</sup>	木造平屋建	1990年
T A保育園	福井市	社会福祉法人	予備調査 1991.6/22 本調査 1991.7/16	90名	782 m <sup>2</sup>	木造2階建	1989年
Y A保育園	石川県 江沼郡	社会福祉法人	本調査 1991.8/30	120名	993 m <sup>2</sup>	鉄骨造2階建	1989年

表-2 調査対象保育室・テラス概要

	幼児数	保育者数	保育室面積	テラス面積
I 保育園	5才児 32名 4才児 36名	3名	132.73 m <sup>2</sup> 4、5才児で3室利用	83.38 m <sup>2</sup> (1.22 m <sup>2</sup> /人)
K U保育園	5才児 45名 4才児 41名 3才児 51名	2名 2名 3名	64.00 m <sup>2</sup> 64.00 m <sup>2</sup> 64.00 m <sup>2</sup>	200.00 m <sup>2</sup> (1.45 m <sup>2</sup> /人)
T A保育園	5才児 24名 4才児 29名 3才児 32名	2名 3名 2名	133.65 m <sup>2</sup> 68.04 m <sup>2</sup> 68.04 m <sup>2</sup>	遊戯室利用 2室利用 2室利用
Y A保育園	5才児 27名 4才児 18名 3才児 13名	3名 1名 1名	52.88 m <sup>2</sup> 52.88 m <sup>2</sup> 52.88 m <sup>2</sup>	244.58 m <sup>2</sup> (4.21 m <sup>2</sup> /人)





## 保育所の平面構成に関する研究

である。(a)の状況は、広縁で自由遊び(積木、運動)、保育室で食事(遅い幼児はそのまま続ける)、食事片付け(食器・家具を主に保育者が片付け、床掃除は保育者がする)が行なわれる。(b)の状況は、和室で着替え(各自が着替える)、午睡(保育者が布団を並べる)が行なわれる。(c)の状況は、和室で着替え(各自が起きて着替え、布団は保育者が片付ける)、食事準備(主に保育者する)が行なわれる。(d)の状況は、保育室でおやつを食べ終わった幼児から後片付けをする。

### 3) TA保育園

現在、5才児は遊戯室、4才児の早生れ遅生れの2クラスと3才児の早生れ遅生れの2クラスは各々保育室を使用している。すなわち、通常の保育空間の使用の状況と異なっている。生活行為が重複している項目を表-3でみていくと、5才児では、(a)自由遊び・食事・食事片付け・着替え・午睡と(b)課題保育・食事片付けと(c)食事・食事準備・着替えと(d)課題保育・食事・食事片付けである。(a)の状況は、遊戯室で自由遊び(食事の終わった幼児より水着に着替えてプールにいったり、運動、お話しをしたりしている)、食事中、食事片付け(各幼児と保育者といしょに食器・家具の片付けを行ない、床掃除を保育者がする)、着替え(午睡の準備をして遊ぶ幼児もいる)、午睡(保育者がゴザを敷いてその上に各幼児が布団を並べて午睡の準

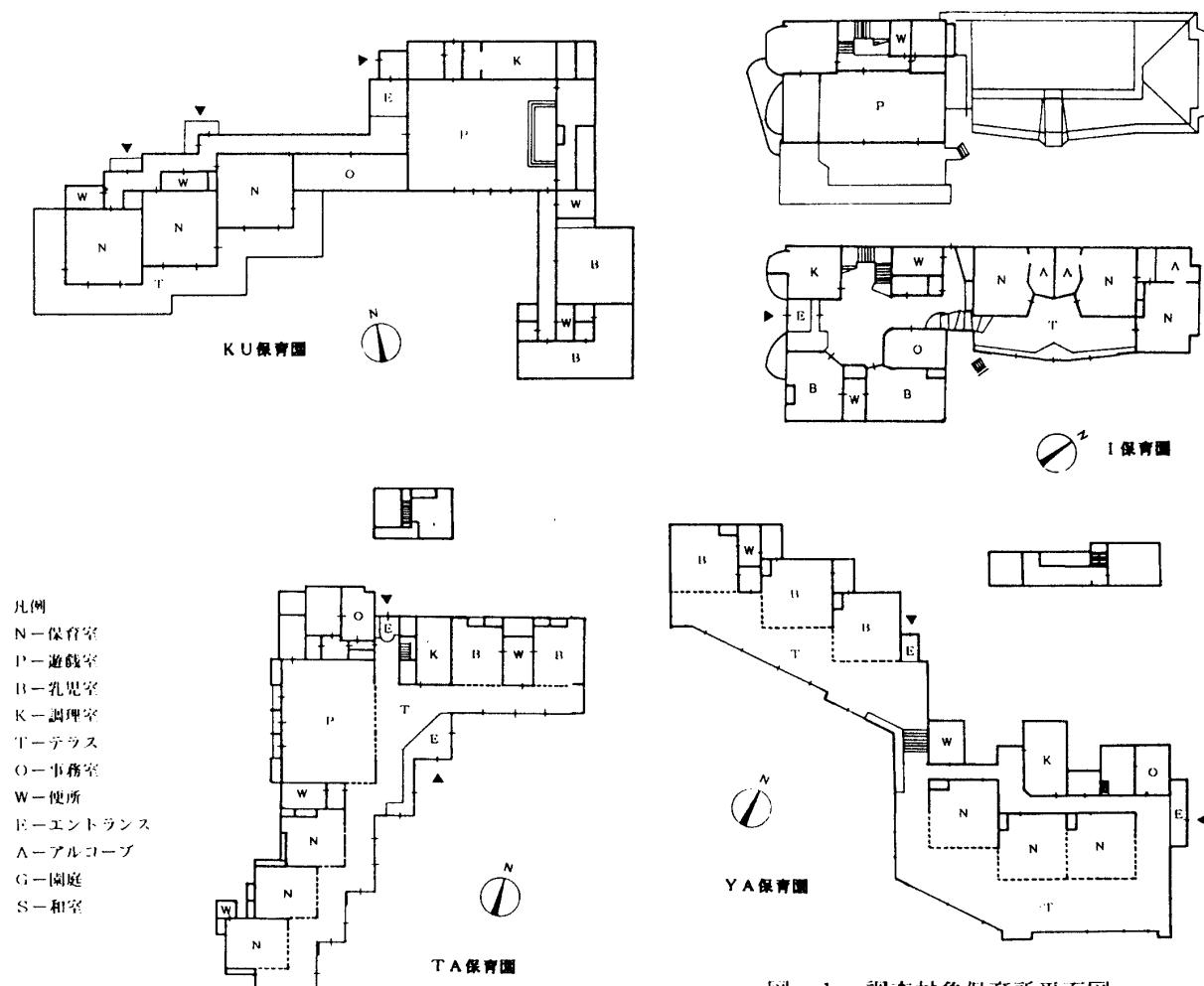


図-1 調査対象保育所平面図

備をする)が行なわれる。テラス空間では、自由遊び(食事の終わった幼児が運動、お話しをする)が行なわれる。(b)の状況は、遊戯室で課題保育(保育者が幼児に絵本を読んで聞かせる)・食事片付け(保育者が床掃除をする)が行なわれる。(c)の状況は、遊戯室で食事準備(保育者が主に行なう)・着替え(幼児自身が行なう)・食事(おやつは着替えが終わった幼児から行なう)が行なわれる。(d)の状況は、課題保育(おやつを食べ終わった幼児から保育者の介助でマット運動を行なう)・食事(おやつを自由にとる)・食事片付け(食器と家具の片付けは主に幼児が行ない、保育者は床掃除を行なう)が行なわれる。4才児では、(a)自由遊び・食事・食事片付け・着替え・午睡と(b)食事・食事準備・着替えと(c)課題保育・食事・食事片付けと(d)課題保育・食事・食事片付けである。(a)の状況では、テラス空間で自由遊び(食後、運動、お話しをする)・食事(食事の遅い幼児はそのまま続ける)が行なわれる。保育室で着替え(着替え後布団の上に横になる幼児もいる)・午睡(午睡の準備で保育者が布団を敷く)が行なわれる。(b)の状況は、保育室で課題保育(幼児に絵本を読んで聞かせる)・テラス空間で食事片付け(食器、家具の片付けは主に保育者が、床掃除は保育者が行なう)が行なわれる。(c)の状況は、保育室で着替え、テラス空間で食事(おやつは着替えの終わった幼児からとる)・食事準備(主に保育者が行なう)が行なわれる。(d)の状況は、テラス空間で課題保育(おやつを終わった幼児から保育者の介助でマット運動を行なう)・食事(おやつを自由にとる)・食事片付け(食器、家具の片付けは主に保育者が行ない、床掃除は保育者が行なう)が行なわれる。3才児では、テラス空間で食事片付け(食器・家具の片付け、床掃除は保育者が行なう)・食事準備(保育者が行なう)であるが、それを除いて4才児の保育状況と同様ある。

#### 4) Y A 保育園

生活行為が重複している項目を表-3でみていくと、5才児では、(a)課題保育・食事準備と(b)自由遊び・食事・食事片付け・着替え・午睡と(c)食事準備・着替えと(d)自由遊び・食事・食事片付けである。(a)の状況は、テラス空間で課題保育(保育者の介助でマット運動をする)・食事準備(幼児が主に家具の配置をして保育者は食器・食事を調理室より運搬する)が行なわれる。(b)の状況は、テラス空間で自由遊び(運動、お話し)・食事(遅い幼児はそのまま続ける)・食事片付け(幼児と保育者が協同して家具・食器を片付け、床掃除は保育者が行なう)・着替え(食事が終わった幼児から各自が着替えをする)・午睡(保育者がゴザを敷いてその上に食事の終わった幼児が布団を並べる)が行なわれる。(c)の状況は、食事準備(保育者がおやつの準備をする)・着替え(各自が起きて着替え、布団の片付けは主に保育者がする)が行なわれる。(d)の状況は、テラス空間・保育室で自由遊び(保育者の介助によるマット運動、床掃除、お話しをする)・テラス空間で食事(おやつを自由にとる)・食事片付け(幼児と保育者と協同で床掃除をして家具・食器は主に保育者が行なう)が行なわれる。4才児では、(a)自由遊び・食事・食事片付け・着替え・午睡と(b)食事準備・着替えと(c)自由遊び・食事・食事片付けである。(a)の状況は、テラス空間で自由遊び(運動、お話し)・食事(遅い幼児はそのまま続ける)・食事片付け(保育者が主に家具・食器を片付け、床掃除は保

育者が行なう）、保育室で着替え（食事が終わった幼児から各自が着替えをする）、午睡（保育者がゴザを敷いてその上に幼児が布団を並べる）が行なわれる。（b）の状況は、テラス空間で食事準備（保育者がおやつの準備をする）、保育室で着替え（各自が起きて着替え、布団の片付けは主に保育者が行なう）が行なわれる。（c）の状況は、テラス空間・保育室で自由遊び（保育者の介助によるマット運動、床掃除、お話しをする）、テラス空間で食事（おやつを自由にとる）、食事片付け（家具・食器は主に保育者が片付け、床掃除は保育者が行なう）が行なわれる。3才児では、（a）自由遊び・食事・食事片付け・着替え・午睡と（b）食事準備・着替えと（c）自由遊び・食事・食事片付けである。（a）の状況は、テラス空間で自由遊び（運動、お話し）、食事（遅い幼児はそのまま続ける）、食事片付け（家具・食器は主に保育者が片付け、床掃除は保育者がする）、保育室で着替え（食事が終わった後主に幼児自身が着替える）、午睡（保育者が布団を並べる）が行なわれる。（b）の状況は、テラス空間で食事準備（保育者がおやつを準備をする）、保育室で着替え（各自が起きて着替え、布団は保育者が片付ける）が行なわれる。（c）の状況は、テラス空間・保育室で自由遊び（保育者の介助によるマット運動、お話し）、テラス空間で食事（おやつを自由にとる）、食事片付け（保育者が家具・食器の片付け、床掃除をする）が行なわれる。

#### 4. 保育行為の継続と保育空間の連続性

各保育園の生活行為、保育空間が重複しているところに保育行為の混乱や幼児に対する影響が潜んでいると考えられる。それらを取除くことを考慮することで、保育内容にそった保育空間が得られる。そこで各保育園で生活行為の円滑な連続を得るために、それらに保育空間がどのような対応をしているか、みてみると、

##### 1) I 保育園

①（4、5才児）、②、③のクラスとも共通のことであるが、保育室で食事を続けている幼児と食事を終えて自由遊びをしている幼児の関係は、近接した空間でそれぞれの生活行為が行なわれているため、幼児にとって各自の位置関係が分りやすく生活行為の連続が得ることができる。ただテラス空間が遊戯室ほど広くはないため、それぞれで行なわれる自由遊びの内容は異なってくる。保育者にとって、同時にそれぞれの生活行為にめがとどきやすく、次の保育の準備ができる。一方では食事をしている静の空間と自由遊びをしている動の空間の境界があいまいになる。

##### 2) K U 保育園

5才児においては、（a）の状況では、広縁（テラス空間）に食事片付けの当番の幼児を除いてほぼ全員がいることになる。広縁では3つの生活行為が進行している。幼児にとって各自の位置の確認が容易であると同時に混乱も招きやすい。また季節によって（特に冬期）は別の保育内容または別の保育空間が必要である。それと平行して保育室では、食事の片付けが進行しているが、生活行為が1つであるため、混乱はなくスムーズに行なわれている。近接して行なわれている生活行為が同時に把握できるため、保育内容の調整や次の保育の準備が容易である。4才児・

3才児では、保育室で食事の遅い幼児がそのまま続け、広縁で食事の終わった幼児が他の生活行為をしている。その様子をみながら保育者は介助をしたり次の保育準備を進める。広縁（テラス空間）と保育室との近接がそれらを可能としている。また幼児にとって、他の幼児の生活行為を間近にみてとれ、次に何をすべきか理解しやすく、幼児各自の位置を確認できる。食事と食事片付けは連続行為で同一空間で行なわれる。

### 3) TA保育園

5才児では、4才児の保育室・テラス空間を合せ持つ空間より大きい遊戲室を保育空間としているため、他の保育園と一概に比較はしにくい。同一空間の領域を4つに分けて使用している。それは、食事、課題保育（リズム体操）、課題保育（マット運動）、午睡である。同一空間であるため生活行為の連続は得やすいが、2つ以上の生活行為が行なわれる場合他の行為に対する干渉が強くなる。しかし、生活行為の領域間を十分にとることで干渉を弱めることは可能である。ただ遊戯室は他の年齢層の幼児も使用するため、園の保育計画を十分に検討する必要はある。4才児・3才児では、近接した別空間で、それぞれの生活行為が行なわれる。すなわち、幼児にとって次の生活行為への移行が混乱なくスムーズに行なわれる。保育者にとって、幼児への目配りが十分にでき、適切な保育ができる。ただテラス空間での生活行為が多くなってくると、交通手段として十分に機能しなくなる。幼児が午睡からおやつに移行する時に行動に個人差が現われるが、それぞれの保育空間が異なるため生活行為の移行が混乱なく行なわれる。また、保育空間が近接しているため、各幼児は自分の位置を確認でき、保育者は目配りができ次の保育準備ができる。

### 4) YA保育園

5才児保育室、4才児保育室、テラス空間の間仕切りが全て可動式で遊戯室に変わら大空間が得られる。保育空間の様々ななかたちを得ることができる。ただ5才児、4才児の保育内容の検討は不可分である。5才児、4才児は大空間で同居し、しかも5つの生活行為が同時進行している。保育空間が広く、寝食の空間が分離しているため、比較的混乱なく次の生活行為に移行できる。保育空間が近接しているため、幼児は自分の位置が確認でき、保育者は2つ以上の生活行為を同時にみることができるが、大空間で様々な生活行為が同時進行していると食事をしている幼児にとって落着かない空間になる可能性がある。3才児も保育行為と保育空間の連続性に関して5才児・4才児と同様である。おやつ時は各年齢層とも個人差はあるが、混乱なく生活行為は連続して行なわれる。

## 5. テラス空間の有効性

テラス空間は保育室の延長上にあり、保育室の付属空間であるとともに、ひとつの独立した空間であることがわかった。2つ以上の生活行為が同時に進行している時、うまくその状況に対応でき、また、完全に独立した空間ではないため、幼児にとって周囲の状況を把握しやすく、次に行なわれる生活行為が予感でき、またすでに行なわれている他の生活行為に移行しやすい。その

## 保育所の平面構成に関する研究

ため保育内容が円滑に進む。テラス空間は保育室からでてきた幼児の交流の場となり、各保育室で保育が行なわれている時は緩衝地帯の役割をして保育室の独立を保つように働く。また半屋外的な要素を含み、自然の光を十分に楽しみながらする食事、夏のさわやかな風を感じながらの遊びに最適な場を提供している。画一的な保育空間になりやすい中にあってテラス空間は様々な保育内容に柔軟に働きかけ有効に機能していることがうかがえる。

### 6.まとめ

(1) 保育室とテラス空間との間の間仕切りを開閉することで容易に大空間、2つの独立空間が得られる。保育内容に応じてそれぞれの空間を使い分けることができる。また近接しているため保育者は2つ以上の生活行為を指導することができ、次の保育行為の準備が比較的容易にできる幼児にとっては次の生活行為へ無理なく移行できる。

(2) 保育室での保育内容が移行する時、テラス空間を自由あそび等の逃げの空間として使用でき、保育行為の継続が比較的容易に確保できる。また、近接しているため保育者は幼児を管理・指導しやすく、幼児は保育室の様子がみわたせるため、次の準備ができやすくなる。

(3) テラス空間では各年齢層のクラスが同一空間で自然な交流ができ、年少児は年長児の生活様子を、年長児は年少児の面倒をみることが可能である。

(4) 半屋外的空間であるため、四季のうつろいを肌で感じる保育行為を実施することができ、保育内容に幅をもたせる場を提供できる。またリズム体操、マット運動等、各クラスのテラス空間を連続して使用した用途にも対応できる。ただ、各クラスのテラス空間の連続使用は保育内容を十分に検討しないと、他のクラスに好ましくない環境をつくりかねない。

(5) 雁行したテラス空間は保育内容をみると比較的保育室との繋がりが強く、横に並んだテラス空間は保育室との繋がり同様にテラス空間どうしの繋がりも強いことがわかる。

### 謝辞

調査にあたって、各保育園の園長先生はじめ多くの保母さんに御協力いただきました。観察調査は川崎晴蔵君、町田功一君と協同で行ったものである。記して感謝いたします。

### 参考文献

- 1) 小川信子：新建築学大系29第4章幼稚園教育施設 彰国社 1983
- 2) 吉田あこ：新建築学大系32 2.3保育所 彰国社 1987
- 3) 日本建築学会編：建築資料集成4集 丸善 1980
- 4) 日本建築学会編：建築資料集成6集 丸善 1979

(平成3年12月20日受理)